

地球環境に学ぶサークル 大江 宏

1.COP26 とは？

「COP」は、Conference of the Parties の略で「コップ」と読み、「締約国会議」と訳されます。条約に加盟する国々が行う会議です。いろいろな COP がありますが、「COP26」は、国連気候変動枠組条約第 26 回締約国会議の略で、国連が主導して気候変動に関する対策を議論する第 26 回目の会議を指します。この COP26 は、昨年英国のグラスゴーで開催され(グラスゴー会議、2021/10/31-11/14)、国連加盟国と同数の 197 の国と地域が参加しました。

この COP26 に先立つ 2015 年の COP21(パリ会議)で、「パリ協定」が採択されています。これは COP3(京都会議)で採択された「京都議定書」に代わり、2020 年以降の気候変動対策の概要を定めました。先進国だけでなくすべての国を対象に、「今世紀後半までに世界の気温上昇を産業革命以前と比べて 2 度より低く保ち、1.5 度に抑える努力をする」ことが長期目標です。



2.パリ協定を受けた COP26 の成果＝「グラスゴー気候合意」は？

①パリ協定の気温上昇に関する長期目標を、2 度未満から 1.5 度に強化することに世界が合意したことが最大の成果です。1.5 度目標を目指すには、2050 年頃には世界全体の温室効果ガス(CO₂で代表)の排出量を実質ゼロにし、2030 年までに世界全体の CO₂ 排出量を 2010 年比で 45%の削減が必要になります。高い目標への合意は、現実の気

候危機の共有、再エネの著しい普及、そして COP26 直前に「温暖化に対する人間の影響は疑う余地がない」と断じた IPCC(国連気候変動に関する政府間パネル)の科学的知見などが後押しとなりました。

②途上国が排出量削減に取り組むための資金の追加支援と資金議論の継続を決定。

③パリ協定第 6 条などの実施指針(ルールブック)が合意されて 6 年越しにパリ協定が完成しました。残されていた市場メカニズム活用などに関する詳細なルールが決まりました。

④排出削減対策のない石炭火力発電を段階的に削減する声明を発表しました。

3.COP26 の主な課題は？

すでに 1.2 度上昇している状況から、1.5 度の高い長期目標を目指して、世界が全速力で走り出せるかどうかです。この目標を目指すには、全ての国、全ての関係者が、社会システムの変革を含む本気の対応が必要です。日本を含めて、現状の削減政策や 2030 年目標は、1.5 度目標に合致していません。まずは今年末までに、2030 年目標を「再度見直し、強化し」報告することです。

4.日本にとっての COP26 の意味は？

日本は、2030 年に 2013 年比で 46%削減、さらに 50%の高みを目指す、そして 2050 年に実質ゼロという目標を持ち、途上国へ 100 億ドルの追加資金支援を行うと表明し一定の評価を得ています。しかし、新技術依存の石炭火力維持は、脱石炭火力の世界の潮流から外れています。

また、エネルギー効率の改善を促す炭素税の強化や、パリ協定 6 条の本格始動が決まり、排出量取引制度の整備も急務です。原発が地震に加え、テロや戦争の対象になることが現実となり、原発に頼らない再エネ 100%のカーボンニュートラルを目指して行くべきでしょう。

[参考文献]小西雅子「COP26 はどこまで到達したか？」
『世界』2022 年 1 月号